

Musée forward Buffet



9

Buffet-Kun e-book vol.9

作品「皮を剥がされた人体」(-56年)。『魔術の魔術』にて「魔術の魔術」。

ペルナル・ビュフェをもて女きたなる月刊紙!!

第9号

1965-1969

西島大介

月刊
ビュフェ



圧倒的なポピュラリティー（大衆的人氣）を得、
名聲を手にして富を築きながら、同時に
家族を愛す良き家庭人でもあるビュフェ。
時にはグロテスクで殺伐とした表現と、
その健やかな日光は、分裂的に見えます…。

フランス北西部の三巷町

サン=カストに居さがまえ。
亡き母との想い出のせいで
創作に打ち込むビュフェ。

やがてベトナム戦争が
始まり、アホロが月へ行く。
そんな時代にビュフェは…

(海よ…)
La Mer

(ラ・メー)
お屋敷にこもり
絵を描く生活。



よし、
できたっ!

やがてビュフェに、

批評の声も
多くありました。

戦後からフランスの、いやヨーロッパ全体の
共通意識を鋭く具現化して、デビューした
ベルナール・ビュフェ。

(やがて60年代、時代は大きく変化。

?)



(遂にビュフェは一貫して変わらずとも言えます)

人々の言ひ憶へから「戦争」が
遠ざかり、ビュフェ作品の
本質・原点が見えにく
くなる中、しかし作品は
日々制作され人気を得て、
ビュフェ自身は億万長者。
この構造こそが、
強さと批判を生んだ
理由だと
思ひます。



「彼の作品はたゞたゞ非難されました。
そのような時ベルナールは、
兎^ト詩^シによって歎かされ、奮起することも
あるのだ」と静かに語ってくれました」



あと「魚」や「鳥」など個性を感じさせる「生物」シリーズも。



一方、1968年には自らの子でもたらされた
ために挿絵本「わたしのサーカス」を出版。
カラフルでユーモラスな内容でした。



どちらのビュフェが本当なのか？ どちらもか？
批評的な結論を下すには、ビュフェは
あまりにも多作で、多様なのでした。



La Mer (ラ・メール)

テュエ「海」という個展はあります。しかし、ベルナール・ビュフェの作品の中には、生涯にわたって「海」がモチーフとして登場します。

「海」でたどるビュフェ作品、スタート!!



1 「三波」(1946)

まだデビュー前、18歳頃に描いた「太暗く荒々しい海は母の思い出の土地サン＝カスト?」

まだ画風を確立する前

レーベンタット
ルーガルで学んだ
写実主義の影響大だも

まだ、海だ、ビュフェクトヤニ!

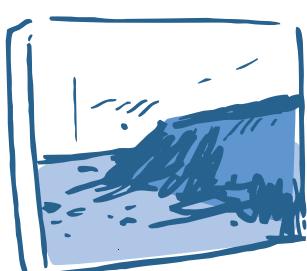
「バレーボール」
(1956)

浜辺でスポーツに興じる男たちを描いた作品。マリベールの結婚前なので、ベルジエで遊びに行った海かも?



2

よーい脱いだから



3 「断崖」
(1964)

「波」同様、ベルジエの海を描いた作品。色彩豊かなながらも共通した荒々しさがあります。ちなみに

ムン…

ブレイクしても原風景を失ふまい…

気がつくと海描いてる



4

「三

(1966) サン＝カストに購入した食料。これまで作。

ビュフェが
たしか毎年
描かれたのは
暗く荒々しい
ベルジエの
海です。

